

活動状況報告（7月）

文化芸術コース 4期生 北浦 由花里

7月は、ワルシャワからバスで3時間程離れた場所にある、Kazimierz Dolnyという町の音楽祭兼マスタークラスに参加してきました。このKazimierz Dolnyは、ポーランド東部の歴史的な町で、現在は観光地となっています。そんな素敵なこの町で、約2週間にわたり、レッスンやコンサートなどが定期的に行われるマスタークラスが行われました。アメリカや日本、ポーランドなど、各国から参加者が集まり、素晴らしい2週間を過ごすことができました。

レッスンは5回あったので、ショパン、M.K. オギンスキ、M. シマノフスカ、G. バツェビチ等、全てポーランド作曲家の作品で受講しました。このマスタークラスには3人の先生がいらっしゃったのですが、この先生方からそれぞれ良いアドバイスをたくさんいただきました。3つのポロネーズ（※ポーランドの民族舞踊または民族舞曲のこと）を、このマスタークラスでの課題として持って行ったのですが、ポロネーズについて先生と議論ができて楽しかったです。ポーランドの初期のポロネーズについて分からないことが多かったのですが、リズム、アクセント、終止形など細かに教えていただきました。初期のポロネーズは、現在認められているようなポロネーズのリズムはあまり見られないのですが、一拍目のアクセントや、メロディ、終止形から判断できると分かりました。

また、自分と同じ曲を弾いていた参加者がいたのですが、自分とは全く異なる解釈をしていたので、お互いに意見交換もしました。お互いに演奏を聴き合ったり、感想を言い合ったりし、とても有意義でした。こいった参加者同士で刺激し合えるのもマスタークラスの良い点だと思いました。

音楽祭の期間中は、たくさんの演奏の機会に恵まれ、4回のコンサートに出演させていただきました。それぞれ違う曲目で参加したので大変な苦勞がありましたが、とてもやりがいがありました。9月に行われる自身の修了リサイタルへの良い練習にもなったと思います。また、どの演奏会もとても温かいお客様が来てくださり、嬉しいお言葉もたくさんかけていただきました。

特に最終日の演奏会では、地元の室内楽オーケストラ（※実際のオーケストラより少人数で行う）と共演させていただきました。日本では中々オーケストラと共演できる機会は少ないので、とても良い経験となりました。曲は、ショパンの「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品 22」を演奏しました。この作品は本来、オーケストラと一緒に演奏する協奏的作品なのですが、今日ではソロ用にアレンジされたものを演奏することが多いです。実際に私もずっとソロ用を演奏してきました。オーケストラとは滅多に演奏される機会のない作品だと思います。オーケストラとのリハーサルは30分程度しかなかったので、本番は悔しい箇所もありましたが、良い勉強になりました。室内楽オーケストラといっても、実際に共演してみるととても弾きごたえがありました。帰国したら、このような編成でショパンのピアノ協奏曲の演奏会を開催できれば、と思います。

9月には学位審査があるので、8月は最後の総仕上げ期間だと思っています。修士論文と90分のリサイタルを成功できるよう頑張りたいと思います。

